

組合員数109,133人
支部数 943
読者数 67,712人
(5日現在)
(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。



第384号 2021年12月15日(水)
(通巻第583号)
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 杉澤 隆宣 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

杉澤新委員長 全労連を表敬訪問

小畑議長と大いに語る



懇談する(右から)小畑全労連議長、年金者組合の杉澤委員長、廣岡書記長

11月25日、中央本部の杉澤隆宣委員長、廣岡元穂書記長は小畑雅子全労連議長(全国労働組合総連合)を表敬訪問しました。1時間におよぶ懇談では総選挙、22春闘、年金とりわけ女性の低年金問題、高齢者就労、改憲阻止、地域労連との人的交流などに話が弾みました。

総選挙の結果をどう評価するか

廣岡書記長 年金者組合は、「総選挙を要求実現の絶好のチャンス」と位置づけ、野党統一候補と政策協定を結ぶことを重視してたたかいました。野党連合政権を作ろうという選挙ですから、これまでとは一歩進んだ取り組みが必要だったからです。ところが残念ながら、野党共闘を前面に立

ての選挙になりきらなかった弱さもあり、それが決定的でした。小畑議長 全労連として

最低保障年金実現めざす

年金者組合に期待共に

年金請願署名全力あげる

も廣岡さんが言われた「要求実現できる政治の実現」という視点での総選挙総括が大

1選挙区では要求に対する回答を明らかにしての自主投票としました。すぐれた経験だと思えます。

杉澤委員長 全労連は連合も含め、さまざまな団体に、わかりやすいテーマで一緒にやります。と申し入れていくことが大切ではないでしょうか。今は大義で押しつけてきたと思うのですが、小畑議長 その通りです。大切なのは年金もそうですが、賃金、労働条

低年金改善は国民的課題

事だと考えています。運動の力で要求を争点に押し上げ、政治を動かす。運動が政治を動かす。政治をつくる

廣岡書記長 全労連の22春闘方針提案に「若者も高齢者も安心できる年金と雇用政策を目指す」と明記されました。請願署名でも年金者組合の要求である「基礎年金の3・3万円をすべての高齢者に支給」が入り、さらに組織方針でも高齢労働者の組織化が入りました。年金者組合として請願署名に全力をあげ、春闘行

時代には入ろうとされています。立憲主義にもとづく政治を取り戻していきたく思います。杉澤委員長 労働組合や大衆団体が政党から独立するのは当然ですが、要求に基づく政党評価をきちんとしていくことが大切だと思います。総選挙で新潟県本部は選挙区で統一候補は組合として推薦、統一できなかった

杉澤委員長 年金裁判の法廷で女性が実情を陳述すると、本当に心が打たれます。裁判所が拍手で包まれ、裁判長も制止しないほどのです。組合結成以来の要求である最低保障年金実現の運動を進めながら、低年金者の現在の生活を支援していかなければならぬと思います。

要求を地域から積み重ねること

廣岡書記長 小畑さんが議長になられ、全労連は年金、高齢者就労問題でシンポジウムや学習会を開き、最低保障年金の政策も確立しました。杉澤委員長就任の第一声は「女性の低年金の問題に光を当てよう」でした。シンポジウム問題にも積極的に取り組む、地域から全労連と力を合わせ「安心して暮らせる」社会実現を目指して頑張ります。

厚労省前で座り込み 医療費2割負担やめよ



総選挙で「絶対的安定数」を維持した岸田内閣は健康を脅かす75歳以上医療費の窓口負担2倍化など「全世代型社会保障改革」を進めています。年金者組合も参加する日本高齢期運動連絡会は11月17〜19日、高齢者が安心して暮らせる世の中を求めて厚労省前に座り込みました。年金者組合の杉澤中央執行委員長は「長生きを国難のようにいうが、日本の少子高齢化は子どもを育てるのを困難にした政府の責任」とのべ、年金削減、75歳以上窓口負担2倍化中止へ奮闘する決意を表明しました。写真。

風雪

▼読者 からのお便りで群馬県中之条町に侵襲戦争協力で公職を追放された人たちが作ったあづま会建立の「おろかも之碑」があることを知った。

▼「再びこの過ちを侵すことなきを願ひ」という碑銘の揮毫者は木暮武太夫。後に運輸大臣を務めた自民党参議院議員である。不本意ながら「上からの」指示で戦争に協力したことへの反省がこの碑の趣旨である。

▼木暮と同じ群馬県出身の中曾根康弘は日米同盟・軍事大国化を進めたが、自民党総裁選では東條と戦争を始めた岸信介に3回とも投票しなかった。パラオで戦死した仲間を思い、「戦争責任」を考えたからだという。

▼戦後76年。少年兵も今は90歳を超え、戦争の体験・教訓は薄れ「敵地基地攻撃」など勇ましい言葉が飛び交う。その下で「上からの」指示の忠実な遂行が求められる。「おろかも之碑」を再び建てることのないよう心せねばなるまい。